

世界に 笑顔を ひろげる シゴト JICA二本松を知っていますか？

JICA二本松は、今年で21年目を迎えました。二本松市にあるJICAの訓練所から世界の国々に派遣された訓練生は11,914人。二本松市に住んでいても、何をするとところなのか、どういう訓練を受けているのか、JICA二本松の存在自体を知らない方もいるかもしれません。今回は、JICA二本松を紹介します。



受入国と活動分野

青年海外協力隊は、世界88カ国(マラウイ、モロッコ、マレーシア、ホンジュラス、パプアニューギニアなど)へ派遣されています。



活動分野(職種)もさまざま、青少年活動、環境教育、幼児教育といった人的資源分野や看護師、助産師、保健師といった保健・医療分野、さらには農林水産、鉱工業などがあります。

待遇や帰国後の支援

JICAボランティアの活動は自発的参加の精神に基づくとはいえ、訓練生の待遇が気になることです。どのような支援があるのでしょうか？主なものは次のとおりです。

現地生活費 現地での生活費として、国ごとに定められた金額(1カ月285~755米ドル程度)が支給されます。

居住費 通常、受入国政府が住居を提供してくれますが、国によっては適当な住居の提供がない場合があります。その際、現地生活費とは別に居住費が支給されます。

国内手当 帰国後の社会復帰に必要な経費に充てるため、手当が支給されます。
※支給には一定の条件があります。

JICAボランティア事業の目的



JICAボランティア事業の目的は、開発途上国と日本人々との絆を深め、国際社会の平和と発展に貢献し、これを通じて日本の平和と繁栄につなげることです。JICAボランティアには、主に青年海外協力隊とシニア海外ボランティアがあります。

JICA訓練所は全国に2カ所だけ

JICAボランティアは派遣国へ赴任する前に訓練を受けます。訓練所は、二本松市と長野県駒ヶ根市の2カ所にあります。このことが縁となり、駒ヶ根市と友好都市を結んでいます。

二本松訓練所では、主にアジア・中東・アフリカへ派遣される方、駒ヶ根訓練所では、主に中南米・大洋州地域へ派遣される方が訓練を受けます。



訓練所では、派遣国での活動に必要な知識や技術を学びます。特に、語学の時間は1日の研修時間の中で半分以上。教室に入るとその言語しか使っていないというルールもあるそうです。

訓練 1 日の流れ

06 : 30 朝の集い
ラジオ体操



07 : 10 朝食
08 : 45 語学訓練



12 : 00 昼食



※毎週金曜日の昼食は派遣国の料理を週替わりで(写真はベトナム編)

13 : 00 語学訓練
15 : 00 各種訓練



18 : 00 夕食
19 : 00 語学自習
自主企画講座

23 : 00 就寝

世界の現状を自分の目で確かめたい

平成27年度第1次隊として、現在二本松訓練所で訓練を受けている二本松市出身の本田藍さん^{ほんだらん}。訓練を終え7月からアフリカのマラウイへ派遣されます。JICAボランティアへ応募したきっかけなどを聞きました。



▲マラウイへ派遣される本田さん

なぜ青年海外協力隊へ応募したのですか？

海外に興味を持ったのは、中学2年生の時に「市民の翼」でアメリカを訪れたときからです。それからは時間とお金さえあれば海外に行きました。大学卒業後、社会人としてただ漠然と仕事をこなす自分に気づき、自分に今出来ることは、海外の現状を日本にいる子どもたちに伝えることだと考えるようになったのがきっかけです。

派遣国マラウイの印象は？

中南米を希望していたのですが、合格通知に「マラウイ」と書いてあって最初はどこ??って思いましたね(笑)。正直、不安もあったけど、マラウイはアフリカの中でも派遣数が一番多い国でしたし、この機会を逃したら一生アフリカへは行けないと思って決意しました。青少年活動を通して、現地の子どもたちが一人でも喜んでくれればいいなと思っています。

帰国後のことは考えていますか？

大学で学んだのは国際教育関係でした。日本では教育実習も経験しているので、やはり子どもに関わる仕事をして行きたいですね。自分の目で見てきた世界の現状を、子どもたちにぜひ伝えていきたいです。

高い志を持った訓練生を尊敬します

二本松訓練所でインドネシア語を教えているエディザル先生は、日本へ来て27年。人生の半分を日本で過ごしています。



授業中に日本語を話したら罰金です

▲二本松大好きエディザル先生

JICAで講師となったきっかけは？

小学生の時、日本の雑誌を見て日本に興味を持ち、母国で日本語の教師になろうと考えていましたが、当時のインドネシアは政治的不安を抱えていました。日本へ留学中、JICAでの講師募集の話を知人から聞いたのがきっかけです。

日本(二本松)へ来ての印象や驚いたことはありますか？

日本へ来て驚いたことはたくさんあります。銀行のATM、そして人の歩く速さには驚きました。コンビニエンスストアもあるし、交通も便利、治安もすごく良いですね。二本松市は自然もいっぱい、落ち着いて生活できる良い所だと思います。友達にも二本松の良さをPRしていますよ。

どんな思いで授業をしていますか？

訓練生たちは皆、高い志を持って勉強しているので、生徒たちの成長にやりがいを感じています。日本はとても便利な国なので、訓練生たちが不便の多い派遣国で生活する際に苦勞することがないように授業を行っています。

帰国した隊員たちの多くが「派遣国のことが大好きになった」「また機会があればぜひ行きたい」と口にすると思います。取材でお話を伺ったインドネシア語講師のエディザル先生も「二本松が第二の故郷になった」と話してくださいました。「どんなに長く住んでいても、私は日本人ではない。そういう外国人の私に対して周りの日本人は、家族同様に接してくれていることがとてもありがたいです。」とエディザル先生は話します。

政治的背景や生活習慣などは違うものの、訓練生たちはそれぞれの派遣国で、多くのことを吸収し、それぞれの専門分野で活躍しています。

世界で活躍する人材を育てている二本松訓練所。意外にも訓練生の7割が女性だそうです。訓練生の本田藍さんは、「まさか自分がこの二本松訓練所で訓練を受けることになるとは思わなかった」と話していました。

二本松から世界へ、全国から集まった訓練生の皆さんの活躍が期待されます。